In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University marge to Osaka Metropolitan University

Title	学生の自律的学習を促進する学修評価・支援システムを考える
Author	池上, 知子
Citation	大阪市立大学大学教育. 15 巻 2 号, p.72-76.
Issue Date	2018-04
ISSN	1349-2152
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	全体討論コメント ： 第 15 回 FD 研究会(2017 年 11 月 2 日開催)
DOI	10.24544/ocu.20180530-010

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

■ 第15回FD研究会（全体討論コメント）

学生の自律的学習を促進する学修評価・支援システムを考える

池　上　知　子
大阪市立大学　教務担当部長・文学研究科教授

IKEGAMI Tomoko

ただ今ご紹介いただきました、大阪市大で今年度教務担当部長をしております池上と申します。

今回、このように非常に充実したシンポジウムでコメンテイターをさせていただくことになり、光栄に思うとともに、私には少々荷が重いなというようにも感じております。

今日は学修支援にかかわる本当にたくさんの取り組みを聞かせていただきましたが、いずれも素晴らしいと思いました。自分の学生時代の頃を思い起こしますと、隔世の感がございます。私が学生のころは、もっとも40年以上も前になりますけれども、先ほどの高橋先生のご発言にもございましたように、「獅子の子落とし」のごとく谷底に突き落とされるとまではいかなくても、万事、学生の自主性に任され自力で何とかするようにといった雰囲気が強かったように思います。そのような中で学生時代を過ごしてきた者にとっては、現在、大学が目指している大学の姿というのは非常に羨ましく感じられます。受け入れた学生に対して、まさに至れり尽くせりというか、とても親切にいろいろな体制を整えていこうとされています。どこかの国で提唱された「揺りかごから墓場まで」という標語がありますが、大学もこれに準じ入学から卒業まで学生をきちんとケアしていこうという方向に向かいつつあるのではないでしょうか。AP事業にも多くの大学が採択され、目下、日本中の大学が「質保証」「学修支援」というキャッチコピーのもと新たな体制づくりに動き始めております。今日はその成果の一端を立て続けに聞かされまして、圧倒されているところです。

その一方で一抹の不安を感じないわけではありません。私がこれから申し上げることは、もしかしたら的外れ、あるいは時代錯誤かもしれませんし、場合によっては本日せっかくご発表いただいた先生方に失礼なことを申し上げることになるかもしれません。その点はご容赦いただけたらと思います。指定討論というのは幾分異なるスタンスからお話するというのが学会のシンポジウムでも常道となっておりますので、あえてそういう役割を引き受けようかと思っております。

この４月から教務担当部長を拝命しております関係で、AP事業や英語教育改革など、学内のいろいろな会議に出させていただく機会があり、本日お聞きしたさまざまな取り組みに関してもある程度知識はございました。けれども、私はどちらかというと意識が低い方の教員でして、このような場でコメントするのはおこがましいというのが正直なところです。ただ、一つ私なりに考えるきっかけになったことがございます。それは教務委員会に関係する会議でのことでした。その会議の場で、昨今の状況に鑑み、学生への支援の一環として、これからは入学当初に学修状況が芳しくない学生を早期に把握し、各学部に情報を提供して対応を促さなければならないという意見が出されました。最初、それをお聞きした時、私は、大学生に対してそこまでする必要があるのかしらというふうに思ったのですけれども、今はそういう方向が主流になりつつあることを改めて認識した次第です。

そのときにたまたま手にした資料に、「大阪市立大学の学籍異動状況等に関する調査報告書」がございました。学務企画課の課長代理であられた上尾さと子さんがご退職前にまとめられたものであるとお聞きしています。本学学生の留年、休学、退学、除籍の実態を調査し、その推移を学部別に年次を追って整理された

もので、背景にある理由を分析した結果も記載されていました。非常によくまとめられた有用性の高い調査報告書でした。

私の目を引いたのは、報告書の冒頭にある「はじめに」のところで記されていた次の文章でした。「入学して、在学年限内に必要単位等を修得して卒業、修了していただくのが大前提である。留年する理由は、ポジティブ、ネガティブどうであれ、卒業、修了するように、大学として各種各様の就学支援をすることが大学の使命である。」これを読んで、教育機関である大学は、受け入れた学生を卒業まできちんと見ていくことが求められていることを改めて痛感させられました。

もっとも、これまでも、卒業が近づくと学生の単位取得状況を調査し、心配な学生にはさまざま指導を行うなど、とにかく、無事、卒業できるように教職員は腐心してきました。けれども、どこかで最終的には学生の自己責任だと考えているところがありますし、またとにかく単位数が揃い、無事卒業できれば、それでよしとしていることも否めません。

これに対し今は、単に必要単位数を取得させるだけでは大学の責務をはたしたことにはならず、卒業時点で学生が修得している能力の中身に踏み込み、各大学が掲げるポリシーで謳われている諸能力をしっかり身につけて卒業、修了してもらうことが前提になっています。そのための各種各様の学修支援を行うことが大学の使命になりつつあります。まさに「質の保証」が求められているのです。今やそういう段階に来ていると考えれば、学生への学修支援をこれほど一生懸命に行うようになったことも首肯できます。

では、その保証すべき能力というのは、どのような能力なのでしょうか。それは、さきほど橋本先生がOCU指標のご紹介をされている中で挙げられていました、「論理的思考力」「情報活用能力」「外国の言語・文化への理解力」「表現力」「社会貢献力」「問題解決能力」といったものになります。これらは本学のディプロマ・ポリシーに謳われている能力にも関連しており、それらがきちんと修得されているかを測定するために開発されたのがOCU指標です。このOCU指標も私は教務担当部長になってから初めて知ったわけですが、よく工夫された指標だと感心させられた半面、これについてもやや疑念がございます。

まず、ここで掲げられている能力は非常に抽象的であり、そうした個々の抽象的な能力をこのように細かく切り分けられるのかという点です。しかも、指標化にあたっては、各科目が各能力の形成にどのくらい寄与するか、この科目は、論理的思考力はこのくらい、外国の言語文化はこのくらい、社会貢献はこのくらいというふうに配分し、履修した複数の科目にわたってその総和を算出するようになっています。けれども、これらの能力は互いに密接に関連しており、1つの授業科目の中ですべてが融合し具現化され身についていくものではないでしょうか。したがって、このように要素に分割し数値化して、それらを通算したものをもって、各学生の学修成果と言ってよいのだろうかというのが私の感想です。

もう一つの問題は、学生へのフィードバックに関することです。多くの学生は単位数がきちんと足りているかということしかあまり気にしていません。最近では、GPAのスコアが表示されることも多くなりましたが、GPAのスコアが2点とか3点とかといったように聞かされても、点数が低いより高いほうがよいのかなといったぐらいの漠然とした印象しか持たないのではないでしょうか。したがって、OCU指標のように、自分に何が身についたか、能力の中身を示してくれるというのはありがたいことではないかと思います。しかしながら、たとえば、卒業のときに、あなたは「外国の言語と文化を学修・修得し、世界のさまざまな国・地域の人々と意思疎通することができます」と伝えるとして、学部4年ではたしてそのようなことが本当にできるようになったことを保証してよいのかいささか心配に思います。多くの学生はせいぜい英語を何とか話せるようになるかならないかといった水準にあるのが実情ではないでしょうか。

それから、社会貢献です。OCU指標によれば、これは「グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚を持ち、みずからの知識・技能を生かして、他者と協調して社会の発展のために寄与することができる能力」を指します。ただ、このような能力に言及するのは10年早いのではないか。この

ことが検証できるのは、卒業してから５年、10年、実社会の中で揉まれながら人生を歩んだ人が、その活躍ぶりを評価されるときではないでしょうか。もちろん、卒業時にこのような質保証を行うことに意味がないとは思いませんが、学生に「あなたには、この能力が、今ありますよ」といって送り出すことは、間違ったメッセージを伝えることになるのではないかと、杞憂かもしれませんが、そのようなことをつらつら思ったりもしていました。

そして、私の抱く最大の懸念は、AP事業で推進されている方向性についてです。この事業の目指していることは、自律的学修者を育てることだと伺っています。自律的学修者というのは、自分で考え、自分の責任で判断し、行動できる、それから、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学修できる能力を持った者であるはずです。私の懸念というのは、このような「自律的学修者」を育てる上で、AP事業が推し進めている取り組みははたして効果があるのかという点です。そのようなことを自問自答しているときに、たまたま朝日新聞に掲載されていたある記事（2017年９月17日付）を目にしました。見出しは「便利過ぎる？社会」、副題に「不便の効用」とありました。

今、社会はいろいろな意味で非常に便利になっています。テクノロジーのめざましい進歩のおかげで、私たちは実に多種多様な機器に囲まれて日々暮らしています。その記事には、こういう便利な社会になると、人間の工夫する能力が落ちていくかもしれない、自ら評価し、判断し、苦労して工夫し、段取りする能力が知らず知らずのうちに低下していくのではないか危惧するといった趣旨のことが述べられていました。さらに、人間というのは、心底不便だと感じたとき自分の頭脳をフル回転させ、工夫して自力で何とかしようとする存在であるとも書かれていました。

今大学は限りなく学生に親切な大学になろうとしております。そのことを思ったときに、親切すぎる社会、親切すぎる学びの環境というのはどうなのだろうか。それは、自ら活路を見出す能力を知らず知らずのうちに低下させてしまうのではないか。自ら評価し、判断し、苦労して工夫し、自分の手で人生を切り開く能力が知らず知らずのうちに低下していくのではないか。心底不親切だと感じたとき、他人には頼れない、先生にも頼れないと思ったときに、学生は自分の頭脳をフル回転させ、工夫して自力で何とかしようとするのではないか。これは、一面の真理ではないかと思います。余りに親切で優しい環境を大学時代に経験すると、社会に出たとき、戸惑うのではないでしょうか。現実の社会はもっと不親切だと思います。誰にも助けてもらえない環境で生き抜く力を学生はどこで身につけるのか、若干不安に思うところがございます。

私の専門は心理学です。心理学では支援とか援助にかかわる研究が古くから行われています。１つは援助する側の心理なのですが、最近は援助される側、支援を受けた側の心理についての研究も増えてきております。支援することは非常によいことだと思います。このこと自体を否定はしないのですけれども、ただ、支援にも陰の部分があって、支援すると、支援された者の依存心を助長します。それから、支援すると、支援された者の自尊心が低下します。支援すると、支援された者の主体性を損ないます。そういう側面もあることを知ると、今お話している学修支援、大学は頑張っていますが、ひょっとしてそれは学生の本当の意味での自律心（自立心）を妨げるのではないか危惧しているところです。もちろん、今日の先生方のお話は、あくまでも自律的学修者を育てるための支援だということです。けれども、お聞きしていると、至れり尽くせりで、今後資金が続く限り、さまざまな便利な教材、有用なアドバイスを学生にどんどん提供していかれるように思います。それが下手をすると自律を妨げる支援をしてしまうことになってしまわないかというのが私の懸念です。

ただ、心理学の分野でも支援には２通りあって、相手を依存志向にしてしまう支援と、真に自律志向（自立志向）にする支援があるといわれています。したがって、どのような学生にどの程度まで支援するのがよいのか、AP事業はどこまで行えばよいのかということを考えてみることも必要ではないでしょうか。この点についてパネリストの方から何か考えておられるところがございましたらお聞かせいただきたいと思います。

学生の自律的学習を促進する学修評価・支援システムを考える

コメント
池上知子
（大阪市立大学教務担当部長）

大阪市立大学の学籍移動状況等
（報告書）
大学運営本部 学務企画課
学務企画課課長代理 上尾さと子
2015年2月

「入学して、在学年限内に必要単位等を修得して卒業・修了していただくのが大前提である。
留年する理由は、ポジティブ、ネガティブどうであれ、卒業・修了するように大学として各種各様の就学支援をすることが大学の使命である。」

単位修得から質保証へ

- 学生が修得すべき能力の中身に踏み込み
- 大学のポリシーで謳う各種能力を身につけて
- 卒業、修了していただくことが大前提
- そのための各種各様の学修支援を行うことは
- 大学の使命である。

科目の修得＝能力の保証か？

ディプロマポリシー	OCU指標
・知識・理解	・論理的思考
・技能	・情報活用
・実践的姿勢	・外国言語・文化
・統合的な学修経験と創造的思考力	・表現
	・社会貢献
	・問題解決

自律的学修者

- 自分で考え、自分の責任で判断し行動できる
- 自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。

便利すぎる？社会-不便の効用-

朝日新聞 2017.9.17

工夫する能力 落ちる

- 自ら評価し判断し、苦労し工夫して段取りする能力が知らず知らず低下していく
- 人は心底不便だと感じた時、自分の頭脳をフル回転させ工夫して自力で何とかしようとする

親切すぎる？社会 –不親切の効用 -

自ら活路を見出す能力 落ちる？

- 自ら評価し判断し、苦労し工夫して自ら人生を切り開く能力が知らず知らず低下していく
- 心底不親切だと感じた時、自分の頭脳をフル回転させ工夫して自力で何とかしようとする

支援と自律（自立） -支援の功罪-

- 支援は被支援者の依存心を助長する
- 支援は被支援者の自尊心を低下させる
- 支援は被支援者の主体性を損なう
- 支援は自律（自立）を妨げないか？

支援のあり方

◆依存志向型の支援

◆自立志向型の支援

どのような学生にどの程度まで支援すべきか？